



# 高野校だより

150th

舞鶴市立高野小学校  
令和5年度学校だより  
第6号  
令和5年8月30日発行

校訓

至誠

進取

自治

協同

〒624-0832 舞鶴市高野台1-1  
Tel 0773-75-0768 Fax78-3050

HP <https://takano-maizuru.edumap.jp>

## 実るほど頭（こうべ）を垂れる稲穂かな

校区にある田園には、黄金色に色付き頭を垂れている稲穂が見られ、暑さの中にも秋の訪れを感じるようになりました。夏休み中、児童の安全へのご配慮、ご家庭や地域での温かい見守り、声かけなどお世話になり、本当にありがとうございました。

2学期のスタートに当たり、始業式で次のような話をしました。

『植物にとって、根っこはとても大切なものですが、その大切な根っこは、土の中であって見えません。一番大切なところが見えないわけです。

人間も同じです。かっこうを気にしたり、身なりを整えたりすることは、ある程度は必要ですが、最も大切なのは「心」です。

いろいろな場面で、心を磨いたり、心を豊かにしたり、心を鍛えたり、友達の心は見えないけれど、どんなふうにも心で思っているのか考えたり・・・。見えないけれど、とっても大切な「心」をお互いに大切に、多くの学びや感動を積み重ねていきましょう。

2学期も、ステキなあいさつ、ステキな言葉、ステキな行動、ステキな心があふれる高野小学校をみんなの力でつくりましょう。』といった内容です。

子どもたちの見えない部分にもしっかりと目を向け、たくましく、豊かな「心」をはぐくむことができるよう日々の学習や行事等に取り組ませたいと考えております。



「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉があります。この言葉の意味は「稲の穂は実が入ると重くなって垂れ下がってくる。学問や徳が深まるにつれ、その人柄や行為がかえって謙虚になることのとえ」とあります。日々の学習での学びが深まり、身に付いてくると、自然と人格も形成され、周囲に対して感謝の気持ちを持ち、思いやりの心を持って接することができるようになるといった意味

合いです。稲を実らせ頭を垂れている稲穂の姿は、つい思い上がったり、自惚れたりしてしまう私たちに、自分の姿がどうであるのかを問いかけているのではないのでしょうか。

2学期には、運動会、社会見学、マラソン大会、舞鶴市合同音楽会、聾学校舞鶴分校との交流、人権旬間、創立150周年記念行事など多くの行事があります。目標を掲げ、大切な成長の機会ととらえ行事に取り組むことが、子どもたちの大きな成長の節目となり、「心」をはぐくむことにつながります。夏休み中に蓄えたエネルギーをいろいろな場面で発揮し、力を伸ばしてほしいと願っています。日々の教育活動において、達成感や成就感が味わえる、また自己肯定感や自己有用感を高められる、子どもたちにとって実りのある2学期となるよう教職員一同努力していく所存です。

後になりましたが、先日の環境整備作業では暑い中、校舎や体育館の普段なかなか手の届かないところを中心に、ほこりやごみを取ったり、丁寧に磨いていただいたりして、子どもたちが気持ちよく2学期のスタートを切ることができるように環境を整えていただきました。お世話になった保護者の皆様、子育て支援協議会の皆様、平日の出にくいところではありましたが、大変お世話になりました。また運動場の除草作業をお世話になりました高野グランドゴルフクラブの皆様、高野ドジャースの指導者・選手の皆様、通学路沿道の除草をお世話になりました地域の皆様には心より感謝申し上げます。暑い中での作業、本当にありがとうございました。

初秋とはいえ、まだまだ残暑厳しい日が続きます。保護者の皆様、地域の皆様にはお体を十分ご自愛ください。2学期も、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



中庭に咲くさるすべりの花



児童会で世話をした朝顔

校長 材木 敏志 教職員一同